日本大学生物資源科学部（学士（生物資源学））の
「卒業の認定に関する方針」,「教育課程編成及び実施に関する方針」
及び「入学者受け入れに関する方針」

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

日本大学生物資源科学部は,「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関するさまざまな問題を発見・解決し，科学・技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，生物資源の生産と利用に関する科学（以下 「生産・利用科学」),「生命科学」,「環境科学」の三分野を基軸とした生物資源科学に関する幅広い知識と高い専門性，豊かな教養，人間活動に関する深い洞察力，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。生物資源科学部では，これらの基本理念と教育目標に基づき,「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ，かつ各学科の教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に，学士（生物資源学）の学位を授与する。

具体的な到達目標

【自ら学ぶ】

〔DP1〕 豊かな教養と生命・食料・資源・環境に関する幅広い知識に立脚した高い倫理観を身につけ，健康で快適な生活，自然環境の保全・修復に貢献できる。

〔DP2〕 日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関するさまざまな問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

〔DP3〕 生物資源科学に関するあらゆる情報を収集して総括し，論理的・批判的な思考をすることができる。

〔DP4〕 日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関するさまざまな問題を発見し，解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

〔DP5〕 学問および科学の発展に寄与するために，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などにより得られた研究成果を発信することができる。

〔DP6〕 生物資源科学に関する英語や日本語の文献，情報を調査して他者の意見を理解し，自分の考えを伝えることができる。

〔DP7〕 生物資源科学に関連するさまざまな分野の人々と連携・協働すること，リーダーシップを発揮して他者の力を引き出し，その活躍を支援することができる。

〔DP8〕 地域社会，日本及び世界における生命・食料・資源・環境をめぐる人間活動において，自己の立場と役割を認識し，生物資源科学に関わるさまざまな活動に貢献することができる。

教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

日本大学生物資源科学部（学士（生物資源学））では，「日本大学教育憲章」（以下，「憲章」）を基に，卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成する。この目的を達成するために，全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，専門教育科目等の授業科目を，設定された各能力別に体系化し，講義・演習・実験・実習等の多彩な学修方法による教育課程を編成して実施する。

学修の成果は，シラバスに明示された到達目標の達成度について，授業形態や授業手法に適した多面的な方法により評価する。「憲章」に示される「日本大学マインド」および「自主創造」の３つの構成要素に関連した８つの能力に関しては，授業内容に対する到達度に加えて，学生自身による振り返り等も考慮して総合的に判定する。

【自ら学ぶ】

〔CP1〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，豊かな教養と生命・食料・資源・環境に関する幅広い知識と高い倫理観を培い，健康で快適な生活や生態系の維持など，自然環境の保全・修復に貢献できる能力を育成する。

〔CP2〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目による体系的な学びを通じて，日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関するさまざまな問題を理解し，説明できる能力を育成する。

【自ら考える】

〔CP3〕　教養教育科目の自然系科目や各学科専門教育科目の講義科目等の体系的な学びを通じて，生物資源科学の各分野に関連するさまざまな情報を統合し，論理的・批判的に思考できる能力を育成する。

〔CP4〕　講義科目の内容に対応する実験・実習・演習科目を一体化させた特徴的なカリキュラムによる体系的な学び「総合的フィールドサイエンス教育」を通じて，日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関するさまざまな問題を自ら発見し，解決策を提案するための能力を育成する。

【自ら道をひらく】

〔CP5〕　「総合的フィールドサイエンス教育」に立脚した学部教育の集大成である「卒業研究」を通じて，自らが設定した課題に果敢に挑戦し，調査・実験などの研究成果を社会に発信できる能力を育成する。

〔CP6〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目（語学系・演習系科目）の体系的な学びを通じて，語学力，国語力，自己表現力，コミュニケーション能力を育成する。

〔CP7〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目（実験・実習・演習科目におけるグループワーク）を通じて，生物資源科学に関連する

さまざまな分野の人々と連携・協働する能力，専門知識を活用してリーダーシップを発揮し，連携・協働者の活躍を支援するための力を育成する。

〔CP8〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各学科専門教育科目による広範かつ主体的な学びにより，幅広い視野と深い洞察力を培い，地域社会，日本及び世界における生命・食料・資源・環境をめぐる人間活動の中での自己の立場や役割を認識し，自己を高めて生物資源科学に関わるさまざまな活動に貢献するための能力を育成する。

入学者受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー：AP）

日本大学生物資源科学部（学士（生物資源学））では，ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するために，多様な選抜方法によって，以下の能力・資質を有する者を受入れる。

【知識・技能】

〔AP1〕　高等学校で習得すべき自然科学の基礎知識を有している。

〔AP2〕　高等学校で習得すべき基礎的な数理能力，論理的思考力を有している。

〔AP3〕　日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境の諸問題に関する基礎知識を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

〔AP4〕　入学後にさまざまな分野の文献を調査し,プレゼンテーション,レポート作成を行うにあたって必要とされる国語力を有している。

〔AP5〕　入学後に生物資源科学に関連する英語文献の講読，英語でのコミュニケーションに必要とされる基本的な語学力を有している。

【関心・意欲・態度・志向性】

〔AP6〕　生物（植物・動物・微生物等）とそれらに由来する生物資源や自然環境に加え，日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関する問題に強い関心を持っている。

〔AP7〕　「生産・利用科学」,「生命科学」,「環境科学」に関する学びを通して自ら課題を見出し，それを積極的・創造的に解決しようとする強い意欲を持っている。

〔AP8〕　日本や国際社会における科学・技術の持続的な発展に貢献しようとする強い意欲を持っている。

〔AP9〕　入学後，本学部での「総合的フィールドサイエンス教育」に関連する実験・実習・演習科目の受講において，多様な人々と協働しつつ主体性を持って学修できる。

日本大学生物資源科学部（学士（獣医学））の
「卒業の認定に関する方針」,「教育課程編成及び実施に関する方針」
及び「入学者受け入れに関する方針」

卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー：DP）

日本大学生物資源学部は,「日本大学教育憲章」に則り，日本や国際社会が直面している生命・食料・資源・環境に関するさまざまな問題を発見・解決し，科学・技術の持続的な発展に貢献することを基本理念としている。また，獣医学科では豊かな教養，獣医学に関連する幅広い知識と高い専門性，高い倫理観を身につけた人材の育成を教育目標としている。これらの基本理念と教育目標に基づき,「日本大学マインド」と「自主創造」の能力を身につけ,かつ獣医学科の教育研究上の目的に対して設定された卒業要件を満たす者に,学士(獣医学)の学位を授与する。

具体的な到達目標

【自ら学ぶ】

〔DP1〕 獣医師として活躍するのに必要とされる豊かな教養・知識・技術を修得し，法令遵守の精神と高い倫理観に基づいて，自らの使命・役割を果たすことができる。

〔DP2〕 日本や国際社会における飼育動物の診療，保健衛生・福祉と公衆衛生の向上，畜産業に関する諸問題を理解し，説明することができる。

【自ら考える】

〔DP3〕 獣医学に関連するさまざまな情報を基に，論理的・批判的な思考をすることができる。

〔DP4〕 日本や国際社会における獣医学に関連する諸問題を発見し，その解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

〔DP5〕 獣医学の発展に寄与するために，新たな問題や課題に果敢に挑戦することができる。

〔DP6〕 獣医師としての社会的な責務や役割を理解し，自分の考えを正しく伝え，実行することができる。

〔DP7〕 獣医師として適切なリーダーシップを発揮し，さまざまな分野の人々と連携・協働することができる。

〔DP8〕 将来にわたって獣医学に関する専門知識及び技術を省察・研鑽し，獣医学の関わる様々な分野に貢献することができる。

教育課程編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

日本大学生物資源学部（学士（獣医学））では，「日本大学教育憲章」（以下，「憲章」）を基に，卒業の認定に関する方針として示された８つの能力（コンピテンシー）を養成する。この目的を達成するために，全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，専門教育科目等の授業科目を，設定された各能力別に体系化し，講義・演習・実習等の多彩な学修方法による教育課程を編成して実施する。

学修の成果は，シラバスに明示された到達目標の達成度について，授業形態や授業手法に適した多面的な方法により評価する。「憲章」に示される「日本大学マインド」および「自主創造」の３つの構成要素に関連した８つの能力に関しては，授業内容に対する到達度に加えて，学生自身による振り返り等も考慮して総合的に判定する。

【自ら学ぶ】

〔CP1〕　全学共通教育科目，教養教育科目，基礎専門科目，各種専門教育科目の体系的な学びを通じて，日本や国際社会が直面している獣医学や生命・食料・資源・環境に関するさまざまな問題を理解し，説明する能力を育成する。

〔CP2〕　獣医学を体系的に学修することにより，生命科学，獣医療ならびに公共獣医事に関する幅広い知識を有し，国際的な視点に立って指導できる人材を育成する。

【自ら考える】

〔CP3〕　卒業論文もしくは臨床研究を通じて，科学的根拠に基づいた論理的・批判的な思考能力を身に付けた人材を育成する。

〔CP4〕　専門教育科目の学修を通じて，自主的に問題や課題を発見し，その解決策を提案できる人材を育成する。

【自ら道をひらく】

〔CP5〕　６年間の学修を通じて，新たな問題や課題に対し諦めることなく果敢に挑戦し，その成果を社会に発信できる人材を育成する。

〔CP6〕　６年間の学修を通じて，自分の考えを正しく伝え，実行することができる人材を育成する。

〔CP7〕　６年間の学修を通じて，さまざまな分野の人々と連携・協働する能力，専門知識を活用してリーダーシップを発揮し，連携・協働者の活躍を支援する能力を有する人材を育成する。

〔CP8〕　６年間の学修を通じて，幅広い視野と深い洞察力を培い，自己の資質を高めるとともに，省察力や自己研鑽力を有する人材を育成する。

入学者受け入れに関する方針（アドミッション・ポリシー：AP）

日本大学生物資源科学部（学士（獣医学））では，ディプロマ・ポリシーに掲げた人材を育成するために，多様な選抜方法によって，次のような能力・資質を有する者を受入れる。

【知識・技能】

〔AP1〕　高等学校で習得すべき自然科学の基礎知識を有している。
〔AP2〕　高等学校で習得すべき基礎的な数理能力や論理的思考力を有している。
〔AP3〕　日本や国際社会が直面している人・動物・環境（生態系）に関連する諸問題の基礎知識を有している。

【思考力・判断力・表現力等の能力】

〔AP4〕　入学後にさまざまな分野の文献を調査し，プレゼンテーション，レポート作成を行うにあたって必要とされる国語力を有している。
〔AP5〕　入学後に獣医学に関連する英語文献の講読，英語でのコミュニケーションに必要とされる基本的な語学力を有している。

【関心・意欲・態度・志向性】

〔AP6〕　生命に対する強い関心と倫理観を有している。
〔AP7〕　日本や国際社会が直面している人・動物・環境（生態系）に関連する諸問題や獣医療に強い関心を持っている。
〔AP8〕　獣医学に関する学びを通して自ら課題を見出し，それを積極的・創造的に解決しようとする強い意欲を持っている。
〔AP9〕　日本や国際社会における獣医学の持続的な発展に貢献しようとする強い意欲を持っている。
〔AP10〕　入学後，実習・演習科目を含む各種開講科目の受講にあたり，多様な人々と協働しつつ主体性を持って学修できる。

以　上